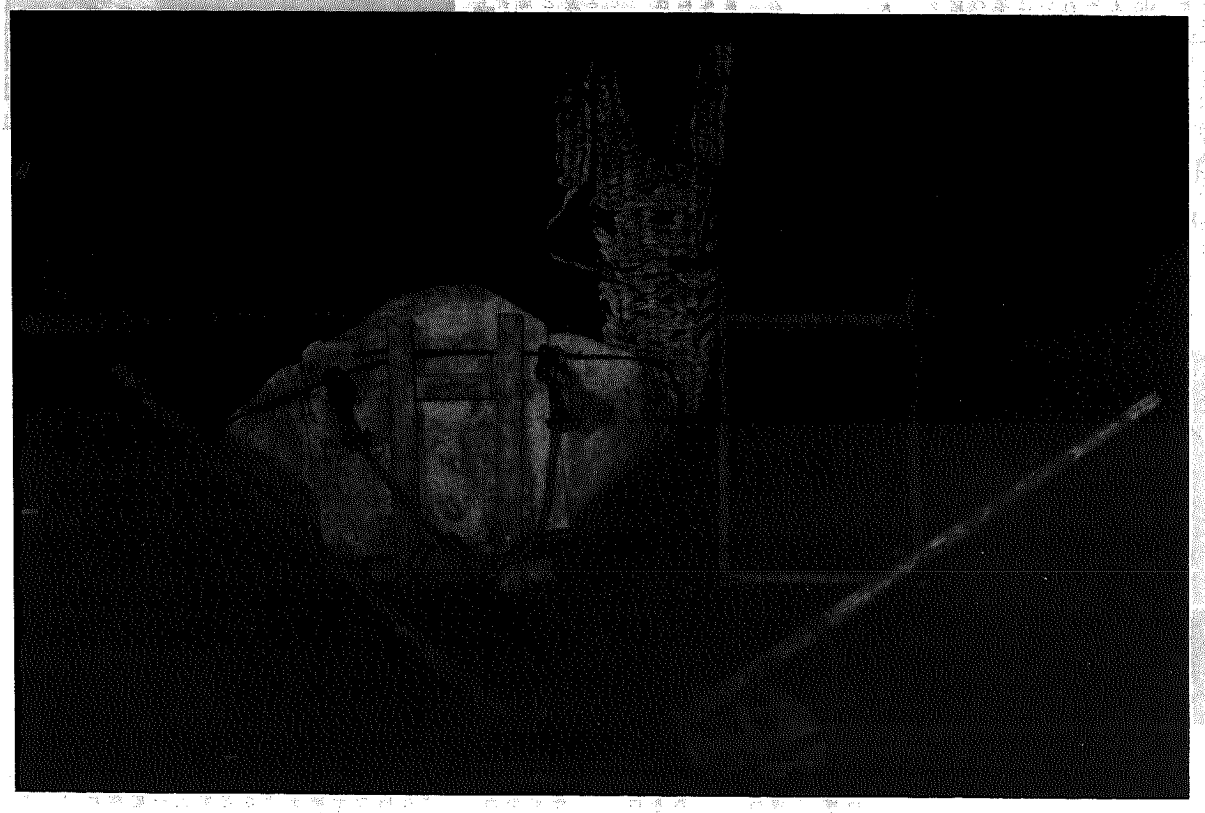
'77 7
No. 62
昭和52年7月5日発行
発行 横越村役場

広報 よこごし

おもな内容
1. 生活のすべてに安全を（1P）
2. 六月議会公民館で開く（2P）
3. 鶴が島をスポーツと憩いの広場に（2P）
4. 地元でとれる原付免許（2P）
5. 横中女子大活躍（3P）
6. 教育委員に中川富栄氏（3P）
7. 分館だより（小杉・木津）（4P）
8. 役場チームが優勝（4P）



横越村民具資料 No.6

右から、じょれん、砂利とおし、ごうぎ、砂・砂利背負かご

7月1日は国民安全の日
生活のすべてに安全を

全国安全週間は昭和三年に始ってから今まで休まず続けられ、本年で五十回をむかえました。

安全週間といえば以前は、危険をともなう土木作業の現場や、すごいうなりをたてる工場等特定の所が作業事故から身を守る、いわゆる産業災害の防止を呼びかけてきたものですが、近年は科学文化の発展と社会の多様化にともない、総べての産業安全、交通安全、火災予防、海難防止等々あらゆる面に安全性の確保が要請されています。

そこで政府は、昭和三十五年国民各界の一致した要望のもとに、産業安全、交通安全火災予防、学校安全、海難防止等の共通の基盤となる安全意識の高揚、安全水準の向上を画るための国民運動展開のため、毎年七月一日を「国民安全の日」とし、国民一人一人が生活環境、その他日常生活の場が安全であるかどうか反省し、改善を加えることを期待しています。

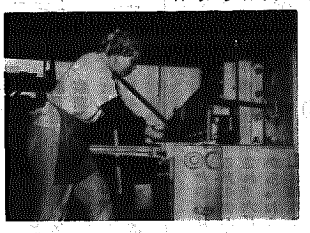
この「国民安全の日」は「生活のすべてに安全を」モットーにし学校、家庭、職場、社会等あらゆる所で安全一斉点検など、それぞれの立場で考えましょう。

子供・老人を重点推進

昭和五十年における子供（十四才未満）及び老人（六十五才以上）の事故死亡数は、全国で一万四千人であり、これは事故による死亡者数の約四十二％に当っています。

また、過去五年間の割合をみると昭和四十六年が三十七％から始まり、以降毎年一～二％増加しています。不慮の事故死でいかに子供、老人が多いかがわかります。

そこで今年の「安全週間」では、子供と老人の安全対策を重点にとり上げ左記に掲げる事項を推進されるよう希望します。



働く婦人のより安全を

⊠子供・老人安全対策⊠

一、子供特に幼児の安全のしつけの強化
二、主婦等保護者に対する安全指導の徹底
三、子供の危険な遊びに「ひと声」の推進
四、応急手当の知識普及と正しい救急車の利用の啓発
五、資材置場、工事現場、川、池、用水路、古井戸等の安全点検及び防止柵立札の設置
六、空地や、校庭解放
七、プール、遊び場の監視強化
八、歩行者、自転車の安全通行指導及び反射鏡の活用
九、保育所、学校の交通安全指導強化
十、水泳指導と安全管理の徹底
十一、通学路の安全点検及び安全確保
十二、老人に対する交通安全指導の強化
十三、子供と、一人暮し、ねたきり老人に避難しやすい寝室の確保及び、老人には「ベル」、「インターホン」等の設置
十四、子供の防火教育推進、年令に応じて、火の怪質、正しい扱い方危険性についてしつける。
十五、子供だけの留守番は特に火の元に気をつける。

横丁話

仲間をつくる、非常に簡単であってむづかしい事である。

社会教育の中でも文化活動、スポーツ、読書会、その他を通じて自分自身の知識や、技能を向上すると云う他に、仲間作りと云う大切なものも含まれてはいないだろうか、然しやゝもすると、テレビ等の中に出て来る人物が自分によく似て居るということを発見して、自分自身満足して居る。

テレビや小説に出て来るのは一方には大きな特色があると、その反面には大きな欠点がある。もし自分のもっている欠点と同じ欠点をもっている事が発見されると、頼りに自分と似て居ることを吹聴して喜ぶ傾向がある。

例えば、平生カンシャクもちとして非難されているものはカンシャクもちの主人公が出て来るとそれを喜ぶ。そしてその人に同情し、カンシャクをおこすのも、ムリないと弁護する。その実は自分を弁護している。「信長がやはりカンシャクもちであったそうだ」というダケで暗に自分と信長とを同一視し、カンシャクもちでも差支えないのだというような心もちを現し、共通点のある事を喜ぶ。又ヨク「英雄は色を好む」と云う諺を引き合いに出して、暗に「英雄でさえ」とか、「自分も英雄の仲間である」とかいう意味をホノめかす。色を好むもの、必ずしも英雄にあらず逆は必ずしも真にあらずという原則を無視している事は明らかであるが仲間を見つけたつもりで安心するのである。これは仲間をつくるのでなく「同病相憐む」と云う方が適当だと思う。

今月は、国民安全の日でもあり、又社会を明るくする運動の月でもある。良い意味の同病相憐む気持も大切であるが、スペチのサークル活動に於いて真の友達を作り、そして同志の知識、技能の向上と健康作りに又、社会生活に於て、災害、公害、人災のない安全の日を作る為に相互に努力しあって明るい社会を作り度いと願っている。（山崎）